

要求とディペンダビリティに関するシンポジウム (Req+Dep'18) 2008年1月23日 プログラム

9:00 ~				受付
9:30 ~				挨拶
9:45 ~ 11:15	講演-1	ゴール指向要求工学 のための複数視点 モデルの構築	Axel van Lamsweerde (University of Louvain)	モデル駆動技術が効果を発揮するか否かは、いかに高品質のモデルを構築できるかにかかっています。モデル構築には本質的に困難さがあります。複数のしばしば互いに矛盾する内容を含む不完全・不正確で量的にも不足がちな材料から、十分な完全性を持ち、適確で、整合性があり、構造も優れたモデルを構築する必要があるからです。われわれが考えなければならないシステムは一般に、ソフトウェア部分、ハードウェア部分、および人間によって構成されています。そのようなモデルは、開発すべきシステムが持つべき意図、構造、機能、動作を統合したものになります。モデルの構築、解析、進化を可能とするには、厳密な技法が要求されます。その技法は、未完成のモデルに対して、早期にまた逐次的に、分析を行うことを可能としなければなりません。そのような分析を行う目的には、目標（ゴール）の満足度の評価法設定、システム属性の検査、モデルの動画像、代替システム設計の評価、リスク・外部からの脅威・衝突の系統的な検出と解決、追跡性管理などがあります。技術的な正確性の要求と未完成モデルへの部分的適用可能性の要求との間には、両立し難い関係があり、そのため宣言的な記述と操作的な記述とが混ざるモデルに対し、発見的な方法と演繹的および帰納的推論方法との組み合わせが求められます。形式手法は必要な時と場所に限定して使われるべきであり、また可能な限りそれが外から隠されていることが望ましいと言えます。この講演では、われわれの研究成果と実践経験を振り返ってご紹介します。問題に基づいた抽象化、解析可能なモデル、そして構造的な技法は、広く関心を集めるテーマだと思えます。
休憩（15分）				
11:30 ~ 12:15	講演-2	IEC 62856 Open systems dependability の背景と今後	木下 佳樹 (神奈川大学)	IEC TC56 Dependability による IEC 62853 Open systems dependability 開発は、2017年11月現在 AFDIS (Approved for Final Draft International Standard)段階にあるプロジェクトである。本稿は最新の FDIS 候補草稿に基づいて、この標準を概観する。
休憩（60分）				
13:15 ~ 14:00	講演-3	深層学習による品質 要求の分類について	玉井 哲雄 (法政大学)	ソフトウェアの要求を明らかにする要求工学においては、開発するシステムに関係する多くの人々が持つ視点を統合した要求モデルを作る必要があります。この講演では、この観点からわれわれが行ってきた研究成果と実践経験を振り返ってご紹介します。問題に基づいた抽象化、解析可能なモデル、そして構造的な技法は、広く関心を集めるテーマだと思えます。
14:00 ~ 14:45	講演-4	システム安全分析 手法 FRAM 概説	羽田 裕 (日本電気通信 システム)	FRAM (Functional Resonance Analysis Method : 機能共鳴分析) は、レジリエンス・エンジニアリングにおける安全分析のための手法である。機能共鳴とは、複数の機能が相互にインタラクションすることを指す。つまり、FRAM における安全分析とは、複数の機能が互いにどのようにインタラクションするのかを明らかにし、その関係の中に安全に係わるシステムの長所や短所を見出すことである。本講演では、FRAM を概説した後に、今年11月に日本で初めて開催された FRAM の研究会「FRAMily JAPAN」の模様や、講演者が実施している FRAM 社内教育について紹介する。
休憩（15分）				
15:00 ~ 15:45	講演-5	「正名論」の呪縛 - 変化する要求について -	岸田 孝一 (SRA)	ソフトウェアの本質は「変化」である。その変化は、最初にシステムの要求分析をおこなう時点からスタートし、システムが一応完成し運用が始まったあとも、ソフトウェアの中身はたえず変化し続ける。そうした変化を邪魔者扱いするのではなく、むしろソフトウェアのダイナミックな常態としてとらえ対処するアプローチが必要とされるのではないだろうか。
15:45 ~ 16:30	講演-6	要求仕様書と日本語	伊藤 昌夫 (NIL)	日本語要求文書の機械検査と、その得失について考えます。多くの要求文書は、日本語で書かれます。一方で、機能・非機能（安全性・セキュリティ等）に関するヌケ・モレ等がないようにするために、様々な代替手段も提案されています。それでもなお、日本語文は重要です。要求文書は、最上位文書であり、読者も多く、特殊な書き方は多くの人にとって理解が難しい場合があるためです。今回、日本語要求文書の機械解析ツールと、そのツールの利用を通して、分かってきたことをご説明致します。
Closing（15分）				